arcserve®

クラウドでもデータ保護はユーザーの責任

鋭い人は気付いている「Office 365でもバックアップは必要」、その実現方法とは？

「クラウドサービスならバックアップは不要」と思っていないだろうか。特に Office 365 ではその “ 誤解 ” がある。バックアップが必要な理由と選定すべき製品を紹介しよう。

Microsoft の「Office 365」は、私たちのビジネスに欠かせない Office ツールやコミュニケーションツールをクラウドで利用でき、エンドユーザーの利便性向上や管理者の負荷軽減が期待できるサービスである。これからシステムのクラウド化を推進しようという企業が “ 初めてのクラウドサービス ” として導入したり、“ 働き方改革 ” の第一歩として採用したりするケースも多い。

ところが、特にクラウド技術に不慣れなユーザーが陥りがちなのが、クラウドサービスに対する過信だ。確かに Microsoft のクラウドサービスは堅牢（けんろう）で、高い可用性を維持していることで知られている。実際、サービスに起因するトラブルは非常に少ない。

ただし、それはサービスが停止しないという前提のことであって、「データが失われることがない」と捉えるのは早計だ。エンドユーザーの操作ミスでファイルを削除してしまったり、内容を改変してしまったりしたことに対して、Office 365 で元に戻せるわけではない。例えばメールデータは、アカウントを削除すれば一定期間で削除されるように規定されている。退職者のメールデータを 1 カ月経過後に参照したくとも、Office 365 には残っていない。

つまり、いかに堅牢なクラウドサービスであっても、「バックアップ／リストア」が必要ということである。自然災害や事故などの大規模な障害だけでなく、むしろ日々のトラブルや人的ミスなどをカバーするためにも、利便性の高いバックアップ／リストアのシステムを採用したい。

本稿では、クラウドサービスである Office 365 に適したバックアップとはどのようなものか、詳しく解説しよう。

ユーザーに起因するトラブルはクラウドでは元に戻せない

メディアやサービス事業者が宣伝するためか、クラウドサービスの堅牢性を過信するユーザー企業は少なくないようだ。確かにクラウドサービスは、事業者の堅牢なファシリティーと高度な冗長化に守られており、サービスそのものが停止することはほとんどない。ただしそれは、あくまでもサービスの可用性についてのことであり、ユーザーデータの保護に関する話ではない。

もちろん多くのクラウドサービスは、ユーザーデータも多重化しているため、サービス側のトラブルで失われることは非常に少ないはずだ。しかし、ユーザー企業側に起因するトラブルまで復旧してくれるわけではない。

Microsoft の「Office 365」 は、Office ツールやメールシステムの運用から解放され、ライセンス数も最適化できるとあって、クラウドを初めて利用する企業にも人気が高いサービスだ。しかしそれ故か、上述のような勘違いをされることが多い。従来のオンプレミスシステムであれば間違いなく導入していたはずなのに、クラウドサービスなら “ バックアップが不要 ” だと思い込んでしまうユーザー企業が少なくないのだ。

Office 365 をはじめ、一般的なクラウドサービスは、データを勝手にバックアップしてくれはしない。エンドユーザーの操作ミスやローカル PC のトラブルなどでファイルを削除すれば、そのまま反映する。ランサムウェアに感染して暗号化されたファイルをアップロードしてしまえば、元に戻すことはできない。

Office 365 のストレージサービスは、ファイルの世代管理をしているため、ある程度の期間は元に戻すことができる。しかし、それにも限界はあり、いつまでも戻せるわけではない。マルウェアの感染に長く気付かなければ、全ての世代が暗号化データになってしまう恐れもある。

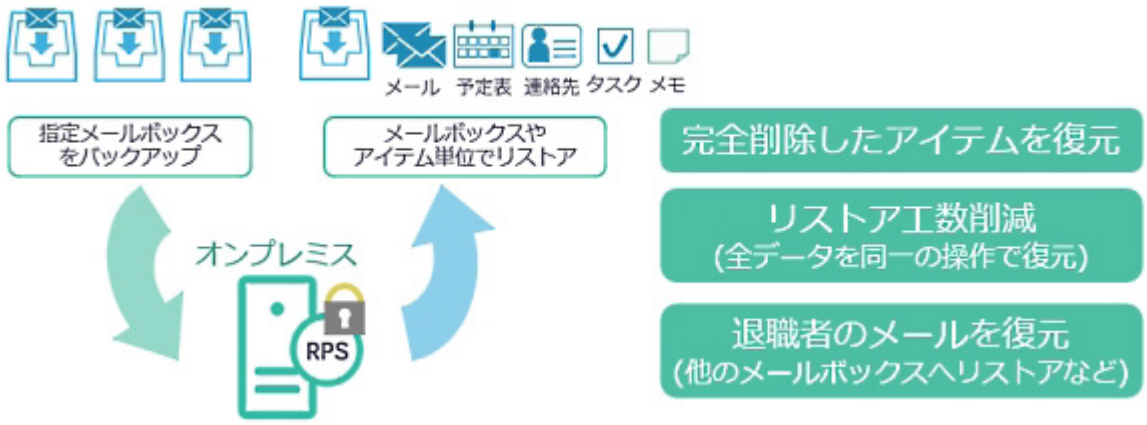
簡単なクラウドだから簡単なバックアップ／リストアを

Arcserve Japan ソリューション統括部シニアコンサルタントの近藤大介氏は、Office 365 について、「例えば、退職後に削除したアカウントのメールデータは、最長でも 30 日しか保持しません。過去のメールを参照するケースに備えて、アカウントを削除せず、ライセンス料を払い続けている企業もあります。それはあまりにも無駄というものです」と指摘する。

いかに堅牢な Office 365 であっても、バックアップはユーザー自身で実施する必要があるのだ。

それでは、Office 365 に保管したファイルやメールデータをどのようにバックアップすればよいのだろうか。

ファイルであれば、オンプレミスのファイルサーバなどにデータをコピーしておくことができる。メールデータも、「Exchange Online」



Arcserve UDP の Office 365 対応機能

・初回だけフル、以後は増分だけで運用可能な
「継続増分バックアップ」

継続増分バックアップの仕組み

のエクスポート機能を用いれば外部に記録しておけるし、「Microsoft Outlook」の PST ファイルをコピーする方法もある。「Skype for Business」のメッセージも、エクスポートすることが可能だ。

しかし、こうした“力業”を選ぶのはナンセンスだ。そもそも運用の負荷を軽減したいがためにクラウドサービスの Office 365 を選んでいるはずなのに、負荷を増大する手法では意味がない。もし何とか運用できたとしても、バックアップデータはどんどん肥大化していく。

そして、それらを戻すことまで考えているだろうか。例えば PST ファイルの場合、それを戻せば全てのデータをリストアすることになる。退職者のメールを参照したいだけで、アカウントを復旧させるというのは負荷が大き過ぎる。

「Office 365 と同じレベルで手間の掛からないバックアップを選択し、運用の負荷増大を避けるべきです。そして、リストアの利便性もセットで考えてください。バックアップ／リストアは、大きなトラブルに活用するだけのものではなく、小さな人的ミスもカバーできる日常的な管理システムなのです」（近藤氏）

Office 365で選定すべき バックアップ製品

運用負荷が小さく Office 365 に最適なバックアップ／リストアツールとして、オススメしたいのが「Arcserve Unified Data Protection」（以下、Arcserve UDP）だ。その理由は幾つかあるが 3 つのポイントが挙げられる。

1 つは「継続増分バックアップ」の機能を持っている点だ。Office 365 には、ビジネスファイルやメールなどの膨大なデータが保管されている。しかもクラウドサービスであるため、インターネット経由のアクセスが基本である。そのため、フルバックアップには膨大な時間がかかるという問題がある。特に、バックアップデータをオンプレミスシステムに保管する場合、定期的なフルバックアップは実質的に不可能といえる。

Arcserve UDP の継続増分バックアップは、最初にフルバックアップを取得した以降、運用中は小さな増分データのみを取得し続け、指定世代数を超えると自動マージする技術である。そのため、バックアップ時間が非常に短く、ストレージ容量も最小限で済むというメリットがある。

Arcserve UDP は、エージェントレスのバックアップシステムであるため、Office 365 側への影響が小さいというメリットもある。バックアップデータを格納する復旧ポイントサーバ（RPS）は、クラウド側にもオンプレミスシステム側にも設置して、Web ブラウザを介して簡単に管理できる。RPS に格納するデータは強力な AES 256 暗号化を施すため、クラウドでも安心して運用することができるだろう。

「Arcserve シリーズは国内でも 20 年以上の販売実績を持つ、非常に安心して導入できるバックアップツールです。サポートには特に注力しており、日本のビジネス環境を理解した専任エンジニアがお客さまの運用を支援します。導入前に疑問や課題があれば、購入前の専用問い合わせ窓口『Arcserve ジャパンダイレクト』を用意しています。ハンズオントレーニングやトライアルも無償で実施していますので、ぜひ活用してください」（近藤氏）

アプライアンスなら バックアップ統合も簡単

Arcserve UDP の導入や運用をより簡易なものにしたいのであれば、「Arcserve UDP Appliance」も有効な選択肢となるだろう。ハードウェアとソフトウェアのサポートを一元化できるため、運用負荷をさらに低減することが可能だ。

もし他のシステムのバックアップも同時に実施したいのであれば、アプライアンスを選ぶメリットは非常に大きい。というのも、Arcserve UDP Appliance にバックアップデータが収まりさえすれば、バックアップ対象が仮想・物理環境のいずれであっても、何台あってもライセンスは使い放題だからだ。12TB と 24TB の筐体をラインアップしており、容量が不足するようであれば拡張することも可能である。

「Office 365 やその他の仮想や物理環境があっても、1 つの Arcserve UDP Appliance でバックアップを統合することができます。容量さえ十分であれば、追加ライセンスは一切不要です。遠隔地に Arcserve UDP を設置すれば、バックアップデータのレプリケーションをして災害対策（DR）／事業継続計画（BCP）対応を図ることも可能です。柔軟かつ容易に、高度なバックアップ／リストア環境を構築できる製品なのです」（近藤氏）

業務の効率化を可能にする Office 365 だけにバックアップ／リストアも効率的でスマートな方法を選ぶのがベストといえるだろう。

Arcserve Japan の近藤大介氏

● 関連リンク

▶Arcserve UDP v6.5 製品カタログ

▶Arcserve UDP v6.5 製品ご紹介資料

▶Arcserve UDP v6.5 ライセンスガイド（Office 365）

● お問い合わせ

Arcserve ジャパン ダイレクト

TEL：0120-410-116

JapanDirect@arcserve.com

※この冊子は、TechTargetジャパン（http://techtarget.itmedia.co.jp/）とキーマンズネット（http://www.keyman.or.jp/）に
2017年9月に掲載されたコンテンツを再構成したものです。
http://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/1709/19/news02.html

copyright© ITmedia, Inc. All Rights Reserved.